

# 「絆でつながる家庭教育支援セミナー in 中南地区」

黒石市 日時:平成27年8月26日(水)～11月 5日(木) 会場:黒石市勤労青少年ホーム  
田舎館村 日時:平成27年9月 2日(水)～11月11日(水) 会場:田舎館村中央公民館

絆でつながる家庭教育支援セミナーは、「地域で支え合う子育て」を学びながら、親子で楽しむプログラムを企画・実践する方法を学ぶ地域密着型の家庭教育支援者育成事業です。セミナーは全 6 回の内容となっており、今年度、開催した中南地区の黒石市と田舎館村でセミナーの様子を紹介します。

## 1 家庭教育支援基礎講座(黒石市:8/26(水)、田舎館村:9/2(水))

講義 「家庭教育基礎講座」～地元発!我ら子育て応援団～

講師 青森中央学院大学 准教授 高橋 佳子 氏



**現在の子育て事情や子育ての価値観が変化**しています。親は「祖父母に頼みたくても頼めない」祖父母は「自分のやり方に不服そうだ」と、互いに距離感を感じています。このことが、親の育児不安の増大へとつながります。

そこで、じいじ、ばあばの力、そして支援者の力が必要です。**経験を経た方と関わることで親の心の余裕につながります。時代は変わっても子育ての基本は変わりません。**地域全体で子育てをできる仕組みを作っていくことが重要となってきます。「とりふるはっぴい」になるためのコツとして、お互いの役割を知ることです。**子育ての主役はパパとママ。じいじ、ばあば(子育て支援の皆様)は、パパ、ママの強力サポーターです。**パパ、ママの辛い状況を受けとめ、孫の様子を見守りながら、お互いの育った時代背景やそれぞれの思い、性格を知り、お互いに感謝の気持ちを伝えていくことが大事です。

## 2 プログラムづくり講座①～③

(1) 事例発表 「地域の絆を深める家庭教育支援活動」(黒石市:9/9(水)、9/17(木))

発表者 大鰐町赤ちゃん子育てサークルわにっこクラブ 代表 阿保 香月 氏

- ・「子育ては、弧育て?」がスタート。大鰐町に嫁いできて**友達がいないママ達の居場所づくり**として「わにっこクラブ」を立ち上げました。
- ・ママ達が企画した講座を立ち上げる活動をしています。ママ達が会話の中で何気なく話したことについて(お菓子作りが得意など)、ママ達が講師となっていたことから、**自分の資源を知ることが大切だ**と感じています。
- ・講座が長続きする秘訣は、**無理をしないこと**です。そして、つながりを大事にして、いろいろな年代の人が家庭教育支援に携われるようにしていきたいと考えています。



(2) 黒石市プログラムづくり講座①～③(9/9(水)、9/25(金)、10/14(水))

- ・「仕事が忙しく親子のコミュニケーションの時間が少ない」という課題を解消するために、軽スポーツ等を通して家族の絆を深め、交流の輪を広げていく機会をつくるためのプログラムを作成。
- ・当日の担当の動きについての詳細決定、参加景品の準備、標示づくり

(3) 田舎館村プログラムづくり講座①～③(9/17(木)、9/30(水)、10/28(水))

- ・田舎館村の垂柳遺跡の「弥生人の足あと」等歴史的な文化財と人材を活用しながら体験活動を行い、親子で一緒に学ぶ機会をつくることで、親子と地域の人々とのつながりの輪を広げていくためのプログラムを作成。
- ・当日の役割分担や準備物等の詳細の確認、「足かた」用粘土、作り方について



### 3 プログラム実践（黒石市：10/18(日)、田舎館村：10/31(土)）

(1) 黒石市プログラム実践（日時：10/18(土)10時～12時、場所：黒石市勤労青少年ホーム）

#### ・事業名 スポーツでつながろう家族でGO！

「仕事が忙しく親子のコミュニケーションの時間が少ない」という課題を解消するために、軽スポーツ等を通して家族や子ども同士、保護者同士の交流の輪を広げていくことを目的に、当日は、21名の一般参加者と16名のスタッフの計37名で実施しました。

開会式の後、地元黒石市の消防士さんによる救急法講習会が開かれ、けがをしたときの処置の仕方等をわかりやすく教えていただきました。その後、各ブースに分かれて、親子でニチレクボール（ペタンク）やカローリング（室内用カーリング）などの軽スポーツに親しみました。また、軽スポーツの休憩タイムとして、読み聞かせやエステ体験もあり、「もっと楽しみたい」と親も子ども触れあひながら大満足なひとときを過ごしました。



ブース
ニチレクボール
カローリング
グラウンドゴルフ
ストラックアウト
読み聞かせ、ハンドエステ

(2) 田舎館村プログラム実践（日時：10/31(土)10時～12時、場所：田舎館村埋蔵文化財センター・博物館）

#### ・事業名 ～親子で“足かだ”作るべし～



田舎館村の垂柳遺跡の「弥生人の足あと」等歴史的な文化財と人材を活用しながら体験活動を行い、親子で一緒に学ぶ機会をつくることで、親子と地域の人々とのつながりの輪を広げていくことを目的に、“足かだ”づくりをしました。当日は、28名の一般参加者と15名のスタッフの計43名で実施しました。

開会式の後、田舎館村埋蔵文化財センター・博物館の小野由美子さんから、弥生人の足あとについての説明を受けた後、2100年前の水田跡を歩いて弥生時代にタイムスリップ。そのまま、粘土を使って“足かだ”づくりへ。親子で粘土を練って柔らかくした後に、子どもが足をペタッとつけてできあがり。小さい足から、ちょっと大きな足まで様々な“足かだ”ができあがりしました。最後に今年とれた稲穂をつけて、田舎館村ならではの“足かだ”が完成しました。

### 4 スキルアップ講座（黒石市：11/5(木)、田舎館村：11/11(水)）

講義 「地域が求める家庭教育支援の実際」～地域の絆の中で活躍する支援者～

講師 特定非営利活動法人 弘前子どもコミュニティ・ピープル 代表理事 清野 眞由美 氏

「わたし」と「ぴーぷる」は、「やりたいと思ったことを実現したい。学区を越えてお母さん達と触れ合いたい。」という思いから、子育て支援のNPOを立ち上げました。合い言葉は「子どもを真ん中に！」「子どもの笑顔あふれる“ひろさき”づくり」です。

これまでの活動は、子育てサークル「チャオチャオ」を立ち上げや、地域でつくるFathering応援事業「パパカレッジ」、小中高校生のためのフリースペース放課後自遊空間「ぷらっとキャンパス」等を実施してきました。現在は、「木育」（木を通じての子どもの健全育成）を中心に活動しています。五感で感じる木のおもちゃとして、あおもり遊び体験広場でワークショップ等の様々な木育活動を展開しています。

地域活性化へのこだわりは、「地域があって活動の柱がある。それらは全て『人』で繋がっている」ということです。「来てくださる方たちに何が必要か。気持ちよく帰ってもらうにはどうすればいいか」を常に考え、人の心をつかむキャッチコピーの工夫やイベントなどに気軽に来てもらうために間口を広めることが大事です。その間口を広げておけば次に繋がるからです。

「自分たちの思いで、自分たちの表現方法で、自分たちに今できることを！」みんなそれぞれができる形でやっていくことがこれからの活動に繋がると思っています。

